

むかし、むかし、ある家のおくら*の中に、お金もちのねずみがすんでいました。お米や麦、あわ*や豆をたくさん持って、ゆたかにくらしていました。

子どもがいないので、神さまにお願いすると、やっとな女の子が生まれました。その子はどんどん大きくなつて、ねずみの国でだれにもくらべられないほど、美しいむすめになりました。

おとうさんとおかあさんは、言いました。「①うちのむすめは日本一のむすめなのだから、ぜひ日本一のおむこさん**をむかえなければならぬ。」

では、世の中でだれがいちばんえらいのでしょうか。

②おとうさんは、高い空の上から世界中を明るくつらすお日さまが、いちばんえらいと考えました。

そこで、おかあさんとむすめをつれて、お日さまのところへ行きました。「お日さま、お日さま、あなたは世の中でいちばんえらいお方です。どうぞ、わたくしのむすめをおよめにもらってください。」

おとうさんがいていねいにおじぎをすると、お日さまは、にこにこしながら言いました。「それはありがたいが、世の中には、わたしよりもっとえらいものがあるよ。」

おとうさんは、びっくりしました。「まあ、あなたよりもえらい方がいるのですか。それは、どなたですか。」

「それは雲さ。③わたしがいくら空で明るくつていても、雲が出てくると、光をさえぎられて***しまうからね。」

「なるほど。」おとうさんは、こんどは雲のところへ出かけました。

ことば * おくら：お米や道具などをしまう建物。 ** あわ：小さなつづの、食べ物になる作物。

*** おむこさん：ここでは、むすめとけっこんする相手。

**** さえぎる：光などが、その先へとどかないようにすること。

もんいち
問一

―①のおとうさんとおかあさんは、なぜ日本一のおむこ
さんをむかえたのですか。一つえらびましょう。
ア むすめが、お日さまとけっこんしたいと言ったか
ら。
イ 自分たちのむすめは、日本一のむすめだと思ってい
るから。
ウ 神さまから、日本一のおむこさんをさがすように言
われたから。

こたえ

もんに
問二

―②のおとうさんは、お日さまのどんなところを見て、
いちばんえらいと考えましたか。一つえらびましょう。
ア だれにでも、にこにこしているところ。
イ たくさんのお米や麦を持っているところ。
ウ 高い空の上から、世界中を明るくてらすところ。

こたえ

もんさん
問三

―③で、お日さまが雲にはか
なわないのは、なぜですか。
つづきを書きましょう。

雲が出てくると、

から。

おとうさんは、雲くものところへやって来きました。

「雲くもさん、雲くもさん、あなたは世よの中なかでいちばんえらいお方かたです。どうぞ、わたくしのむすめをおよめにもらってください。」

「それはありがたいが、世よの中なかには、わたしよりもつとえらいものがあるよ。」

おとうさんは、びつくりしました。「まあ、あなたよりもえらい方かたがいるのですか。それは、どなたですか。」

「①それは風かぜさ。風かぜにふきとばされては、わたしもかなわないよ。」

「なるほど。」おとうさんは、こんどは風かぜのところへ出でかけて行いきました。

「風かぜさん、風かぜさん、あなたは世よの中なかでいちばんえらいお方かたです。どうぞ、わたくしのむすめをおよめにもらってください。」

「それはありがたいが、世よの中なかには、わたしよりもつとえらいものがあるよ。」

おとうさんは、びつくりしました。「まあ、あなたよりもえらい方かたがいるのですか。それは、どなたですか。」

「②それは壁かべ*さ。壁かべばかりは、わたしの力ちからでも、ふきとばすことはできないからね。」

「なるほど。」③おとうさんは、こんどは壁かべのところへ出でかけて行いきました。

ことば * 壁かべ：家などのまわりや、へやのしきりになるもの。

もんいち
問一

―①の雲くもの話はなしに合うものは、どれですか。一つひとつえらびましょう。

ア 雲くもは、風かぜにふきとばされる。

イ 風かぜは、雲くもにふきとばされる。

ウ 雲くもと風かぜは、どちらも相手あいてをふきとばせない。

こたえ

もんに
問二

―②で、風かぜにもできないことは何なんですか。一つひとつえらびましょう。

ア 雲くもをふきとばすこと。

イ 壁かべをふきとばすこと。

ウ ねずみと話はなしをすること。

こたえ

もんさん
問三

―③のおとうさんは、風かぜの話はなしを聞きいて、こんどはだれがいちばんえらいと思おもいましたか。つづきを書かきましょう。

が、いちばんえらいと思おもいました。

おとうさんは、壁のところへやって来ました。

「壁さん、壁さん、あなたは世の中でいちばんえらいお方です。どうぞ、うちのむすめをおよめにもらってください。」

「それはありがたいが、世の中には、わたしよりもつとえらいものがあるよ。」

おとうさんは、びっくりしました。「まあ、あなたよりもえらい方がいるのですか。それは、どなたですか。」

「それは、ねずみさんさ。わたしがいくらかたくなつて、がんばっていても、①ねずみさんは、わたしの体を食いやぶって、あなをあけて通りぬけて行くじゃないか。だから、わたしはどうしても、ねずみさんにはかなわないよ。」

「なるほど。」おとうさんは、こんどこそ、心からなるほどと思ったように、ぽんと手を打ちました。

「②これは今まで気がつかなかった。じゃあ、わたしどもが世の中でいちばんえらいのですね。ありがたい。ありがとう。」

おとうさんは、にこにこしながら、いばって帰って行きました。そして、帰るとさっそく、③おとなりのちゅう助ねずみを、むすめのおむこさんにしました。

わかいおむこさんとおよめさんは、なかよくくらしで、おとうさんとおかあさんをだいにしました。そして、たくさんの子どもが生まれ、おくらのねずみの一家は、ますます栄えました*。

ことば * 栄えました：ここでは、家族がふえ、ゆたかにくらしたということ。

なまえ
名前：

と
解く

もんいち
問一

―①で、壁がねずみにはかな
わないのは、なぜですか。つ
づきを書きましょう。

ねずみが、

から。

もんに
問二

―②の「わたしども」は、だれのことですか。一つえら
びましょう。
ア お日さま。
イ 壁。
ウ ねずみ。

こたえ

もんさん
問三

―③で、おとうさんがねずみをおむこさんにしたのは、
なぜですか。一つえらびましょう。
ア 壁の話聞いて、ねずみがいちばんえらいと思った
から。
イ 壁から、ちゅう助ねずみとけっこんさせるように言
われたから。
ウ むすめから、となりにすんでいる相手がよいと言わ
れたから。

こたえ

問3

解答例：光をさえぎられてしまう

本文のどこを見るか

傍線③の後半。

考え方

雲が出ることで、お日さまの光がどうなるかを確認めます。

採点ポイント

「光がとどかなくなる」も正解。「暗くなる」だけなら、「お日さまの光はどうなるかな」と確認します。解答例は、欄の中に書く部分です。

問2

正解：ウ

本文のどこを見るか

傍線②の「世界中を明るくてらす」。

考え方

おとうさんが、お日さまのどんな力に注目したかを読みます。

誤答の理由

ア：お日さまの様子ですが、選んだ理由ではありません。

イ：ねずみの家の暮らしについて書かれたことです。

問1

正解：イ

本文のどこを見るか

傍線①の「うちのむすめは日本一のむすめなのだから」。

考え方

おむこさんを選ぶ条件と、その理由をつなげます。

誤答の理由

ア：むすめが、お日さまと結婚したいと言ったとは書かれていません。

ウ：神さまが、相手の条件を指示したとは書かれていません。

問3

正解：壁

本文のどこを見るか

風の説明と、傍線③の行動。

考え方

おとうさんが、いちばんえらいと思った相手を訪ねていることを読み取ります。

採点ポイント

「壁」「壁さん」「かべ」「かべさん」で正解。語の読み書きと、内容の理解は分けて確かめます。

問2

正解：イ

本文のどこを見るか

傍線②の「壁ばかりは」「ふきとばすことはできない」。

考え方

風にできることと、できないことを区別します。

誤答の理由

ア：雲の話から、風にできると分かります。
ウ：実際に風がおとうさんと話をしています。

問1

正解：ア

本文のどこを見るか

傍線①の「風にふきとばされては」。

考え方

ふきとばすのが風、ふきとばされるのが雲だと整理します。

誤答の理由

イ：ふきとばす側と、ふきとばされる側が逆です。
ウ：風が雲をふきとばせることと合いません。

問3

正解：ア

本文のどこを見るか

傍線②から③。

考え方

壁の話を聞いたあとのおとうさんの考えと、おむこさんを決めた行動をつなげます。

誤答の理由

イ：壁は、ちゅう助をすすめていません。

ウ：むすめが、近くに住む相手を希望したとは書かれていません。

問2

正解：ウ

本文のどこを見るか

傍線②の話し手と、直前の壁の話。

考え方

ねずみのおとうさんが、自分たちねずみを指していると読みます。

誤答の理由

ア：お日さまを指す言葉ではありません。

イ：壁は説明をしてくれた相手です。「わたしども」と話しているのは、ねずみのおとうさんです。

問1

解答例：壁にあなをあけて、通りぬけて行く

本文のどこを見るか

傍線①。

考え方

かたい壁にも、ねずみが何をできるかを読みます。

採点ポイント

「壁にあなをあける」「壁の体を食いやぶる」も正解。「壁をかじる」だけなら、「かじると壁はどうなるかな」と確認します。解答例は、欄の中に書く部分です。

使い方・出典・教材制作

ねずみの嫁入り／小学1・2年生向け

印刷と使い方

全10ページ。児童用：1～6ページ、解答・解説：7～9ページ、使い方・出典：10ページ。A4横向き・片面・実際のサイズ（100%）で印刷します。児童用のみなら1～6ページを指定してください。各回の本文を上、問題を下に並べます。

取り組み方

1年生は大人と一緒に、2年生は自分で読むことを目安に、読む力に合わせて進めてください。その回の本文を見ながら答えて構いません。難しい言葉は、注釈と一緒に確かめます。

問題と採点

各回3問。3択2問と、語尾などの補助がある記述・短答1問です。第2回の短答は、相手の名前を答えます。記述は、用意された書き出しと語尾につながるよう書きます。漢字を使う必要はありません。

指導のポイント

だれが何をできるのか、相手の話を聞いておとうさんがどう考え、行動したかを読みます。「えらい」は登場人物の考えとして扱い、物語の外でもねずみが一番だと決めつける問題にはしていません。

本文の扱い

提供された青空文庫本文をもとに、低学年向けに表記・語句・文の構成を整え、一部の表現を省略・言い換えています。ふりがな・注釈・傍線・全3回の区切りは教材用です。原文そのままの転載ではありません。

作者・作品

作品：『ねずみの嫁入り』

作者：楠山正雄

出典情報

底本：『日本の神話と十大昔話』

講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年5月10日第1刷発行

1992（平成4）年4月20日第14刷発行

入力：鈴木厚司

校正：大久保ゆう

2003年8月2日作成

出典の確認先

青空文庫

<https://www.aozora.gr.jp/>

本文と書誌・入力校正情報は、ご提供の青空文庫作成ファイルに基づきます。青空文庫の入力・校正・制作は、ボランティアの皆さんによるものです。

教材制作

家スタ！／学習舎シオン